

調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会
(平成 28 年度第 2 回) 議事概要

【日時】平成 29 年 2 月 20 日 (月) 15:00～17:00

【場所】国土交通省 (中央合同庁舎 3 号館 11 階) 特別会議室

【議事概要】

(1) 建築設計業務等に関する入札・契約の実施状況

- ・ 総合評価落札方式と価格競争方式のいずれかを選択する業務について、選択の考え方は整理されているのか。

(2) 設計成果の品質確保について

- ・ 受注者側のこれまでの品質確保の取組について、対策と効果の時系列での分析が必要である。分析を進めて次回以降に報告していただきたい。
- ・ 設計の品質が確保できたかの視点にとどまらず、事業の上流段階で改善すべきことはなかったかという事業全体での視点で、分析していくことも必要である。
- ・ 測量、地質調査の業界からも、品質確保の取り組みや事業プロセスに対する改善提案などの報告があってもよいのではないか。

(3) 担い手確保・育成について

- ・ 平準化について、繰越制度を有効に活用することによって平準化を実現していくのであれば、現在の目標設定の考え方も見直しを検討すべきではないか。
- ・ 平準化について、測量の繰越件数が少ない。その要因についても分析して頂きたい。
- ・ 平準化について、大きく踏み込まれたことは、大変歓迎したい。春の天気の良い時に動けず、台風時期や積雪期に調査をする状況は、品質確保の上でも回避した方が良い。
- ・ 若手配置の試行について、一定の年齢以下を参加要件とすることに、問題が発生しないのか。応募者の状況について、確認して頂きたい。
- ・ 若手配置の試行において、45 歳以下を若手としている場合があるが、担い手を確保する観点で、20 代の若手を評価する方法もあるのではないか。
- ・ 総合評価方式の活用による技術者の固定化と若手確保、育成は意味合いが異なる点は留意する必要がある。
- ・ 若手配置の試行について、40 歳程度以下の管理技術者としての経験は重要であるが、どの仕組みがベストかは決められないので、望ましい形を模索して頂きたい。
- ・ 地質業界は 30 代が非常に少なく、30 代に集中的に経験できるような仕組みがあっても良いと思うので、検討頂きたい。
- ・ 若手配置の試行において、企業の若手技術者の取り組み姿勢を配点することを検討頂きたい。

(4) 総合評価落札方式の現状分析

- ・ 得点率の差は経年的に縮小していることについて、改善の検討が必要ではないか。
- ・ 技術点で差がつかなくなっており、結果として価格で競争するかのようになっているのではないか。